



平成30年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成29年11月10日

上場会社名 株式会社 NEW ART

上場取引所 東

コード番号 7638 URL <http://www.newart-ir.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役会長兼社長 (氏名) 白石 幸生

問合せ先責任者 (役職名) 取締役 (氏名) 松橋 英一

TEL 03-3567-8098

四半期報告書提出予定日 平成29年11月10日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成30年3月期第2四半期の連結業績(平成29年4月1日～平成29年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年3月期第2四半期	7,067	△0.5	535	△44.7	511	△46.9	242	△68.2
29年3月期第2四半期	7,100	17.8	968	30.8	962	32.2	762	7.4

(注) 包括利益 30年3月期第2四半期 240百万円 (△68.6%) 29年3月期第2四半期 767百万円 (8.0%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年3月期第2四半期	0.73	—
29年3月期第2四半期	2.29	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
30年3月期第2四半期	13,682	6,788	49.6
29年3月期	13,304	6,981	52.5

(参考) 自己資本 30年3月期第2四半期 6,788百万円 29年3月期 6,981百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年3月期	—	—	—	0.00	0.00
30年3月期	—	—	—	—	—
30年3月期(予想)	—	—	—	0.30	0.30

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成30年3月期の連結業績予想(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	14,500	7.0	1,300	△19.0	1,300	△17.7	800	△26.9	2.41

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 — 社 (社名) 、 除外 — 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	30年3月期2Q	332,527,514 株	29年3月期	332,527,514 株
② 期末自己株式数	30年3月期2Q	6,580,607 株	29年3月期	109,710 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	30年3月期2Q	330,597,318 株	29年3月期2Q	332,418,738 株

※四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績予想の見通しなどの将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提にもとづいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績などは様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件および業績予想のご利用にあたっての注意事項などについては、[添付資料]P4「1.当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(セグメント情報等)	10
(重要な後発事象)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 経営成績の分析

当第2四半期連結累計期間（平成29年4月1日～平成29年9月30日）におけるわが国経済は、企業収益や雇用の改善を背景に緩やかな回復基調が続きました。個人消費は、緩やかな持ち直しの動きで推移しました。

このような経済状況のもと、当社グループは、当連結会計年度より、新中期経営計画「Success Road 2020」をスタートし、中長期における事業規模の拡大及び収益力の向上に向けて、国内既存事業の更なる拡大、海外展開の推進、新規事業の育成、利益を生み出す筋肉質な組織の構築を目指し、事業活動を推進しました。

当社グループは、平成29年10月1日に、当社を株式会社とする持株会社体制へ移行しました。持株会社体制に移行することで、各事業の責任体制の明確化を図り、事業間のシナジー効果の最大化、機動的な組織再編、戦略的な事業提携、コーポレートガバナンスの強化等、グループ各社が事業環境の変化に柔軟に対応できる体制を構築することにより、更なる事業の成長及び企業価値の最大化を目指していきます。

当社グループは、平成29年11月2日に、仮想通貨関連事業に参入することを決定し、仮想通貨のマイニング事業の立ち上げ準備を開始しました。今後は、仮想通貨のマイニング事業に加えて、仮想通貨取引所への参入も検討し、仮想通貨関連事業の拡大を目指します。

当第2四半期連結累計期間における当社グループの業績は、売上面では、主力のジュエリー事業が引き続き好調に推移したことに加え、その他事業の売上が第1四半期連結会計期間より新たに増加しましたが、アート事業の絵画取引が同事業における新規事業の立ち上げ準備のために抑制されたこと、またエステ事業の売上が減少したことにより、売上高は70億67百万円（前年同期比0.5%減）となりました。利益面では、ジュエリー事業において海外初の大型店舗を新規オープンしたことにより費用が先行していることやエステ事業の売上減による利益減少などにより、営業利益は5億35百万円（前年同期比44.7%減）、経常利益は5億11百万円（前年同期比46.9%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は2億42百万円（前年同期比68.2%減）となりました。

なお、当社は、第1四半期連結会計期間より、平成29年10月1日の持株会社体制への移行に向けて、グループ会社の管理体制を見直し、経営管理方針を変更しました。また、株式会社ニューアート・クレイジー、株式会社ニューアート・ウェディング※、HONG KONG NEW ART LIMITED 及び台湾新美股份有限公司の重要性が増したため、連結の範囲に含めています。これにより、第1四半期連結会計期間より報告セグメントを、従来の「ジュエリー・アート事業」から「ジュエリー事業」及び「アート事業」の2区分に変更するとともに、「その他事業」を新たに追加し、「ジュエリー事業」「エステ事業」「アート事業」「その他事業」の4つのセグメントに変更しました。以下の前年同期比につきましては、前年同期の数値を変更後のセグメント区分に組み替えた数値で比較しています。

※株式会社ニューアート・ウェディングは、平成29年10月13日に株式会社ニューアート・コインに商号変更いたしました。

①ジュエリー事業

当第2四半期連結累計期間におけるジュエリー事業の売上高は46億63百万円（前年同期比9.0%増）、セグメント利益は5億65百万円（前年同期比28.2%減）となりました。

売上高につきましては、国内の集客強化に努めたことで来店客数が増加したことに加え、海外店舗が加わったことにより、前年同期と比べ増加しました。利益につきましては、平成29年6月に海外初となる台北本店（台湾・台北市）を新規オープンし、積極的なプロモーション活動を推進しました。海外における同事業は、今期は立ち上げフェーズであるため費用が先行していることにより、セグメント利益については前年同期と比べ減少となりました。

平成29年9月に、「銀座ダイヤモンドシライシ」及び「エクセルコ ダイヤモンド」の2つのブランドの統合店舗を新潟県中央区及び長崎県長崎市に新設しました。平成29年9月末における、「銀座ダイヤモンドシライシ」の国内店舗は40店舗、海外店舗は2店舗、「エクセルコ ダイヤモンド」の国内店舗は22店舗、海外店舗は1店舗となりました。

②エステ事業

当第2四半期連結累計期間におけるエステ事業の売上高は15億62百万円（前年同期比12.4%減）、セグメント利益は23百万円（前年同期比84.1%減）となりました。

同事業の中長期的な売上拡大及び利益率の改善を図るため、今期は営業体制及び管理体制の構造改革を推進しています。これにより、前年同期と比べ減収減益となりました。なお、平成29年9月末における国内店舗は26店舗、海外店舗は2店舗となります。

③アート事業

当第2四半期連結累計期間におけるアート事業の売上高は6億19百万円（前年同期比40.4%減）、セグメント利益は18百万円（前年同期比66.0%減）となりました。

アート事業につきましては、新規事業の立ち上げ準備を進めており、在庫商品の充実を図るため販売を抑制した結果、前年同期と比べ減収減益となりました。

④その他事業

当第2四半期連結会計期間におけるその他事業の売上高は2億22百万円、セグメント損失は32百万円となりました。

第1四半期連結会計期間に、非連結子会社の株式会社ニューアート・クレイジー及び株式会社ニューアート・ウェディングの重要性が増したため連結子会社化し、それぞれスポーツ関連事業、ウェディング事業を推進しています。スポーツ関連事業は順調に推移したものの、ウェディング事業が赤字であるため、セグメント損失を計上しました。

注) 上記のセグメントの業績数値は、セグメント間の内部売上高または振替高を調整前の金額で記載しています。

当社グループのセグメント別売上は、以下のとおりであります。

セグメントの名称	販売・サービスの名称など	当第2四半期連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年9月30日) (千円)	前年同期比(%)	構成比 (%)
ジュエリー事業	ブライダル関連商品の販売、サービス	4,663,719	9.0	66.0
エステ事業	エステティックサロンの運営、化粧品等の販売	1,562,738	△12.4	22.1
アート事業	美術品等の販売	619,568	△40.4	8.8
その他事業	ゴルフ用品の販売、結婚式場・レストランの運営	221,294	—	3.1
合 計		7,067,320	△0.5	100.0

- (注) 1. 上記の金額には、消費税等は含んでおりません。
 2. セグメント間の取引については相殺消去しております。
 3. 「ジュエリー事業」は、ブライダルジュエリー販売、ウェディング送客サービス、ティアラ・レンタルサービスおよびファッションジュエリーの売上となっております。
 4. 「エステ事業」は、エステ施術サービス、化粧品、栄養食品および美容機器販売の売上となっております。
 5. 「アート事業」は、美術品等の販売の売上となっております。
 6. 「その他事業」は、ゴルフクラブ用カーボンシャフト、ゴルフ用品の販売および結婚式場・レストランの運営による売上となっております。

(2) 財政状態に関する説明

(資産の部)

流動資産は、前連結会計年度末比5億98百万円増加(前連結会計年度末比6.4%増)し、99億12百万円となりました。現金及び預金は10億35百万円減少しておりますが、これは、設備投資や仕入及び関連会社への出資を強化したことによるものであります。したがって、商品及び製品は13億40百万円増加、受取手形及び売掛金は1億69百万円増加となりました。

固定資産は、前連結会計年度末比2億20百万円減少(同5.5%減)し、37億70百万円となりました。主な要因として、関係会社長期貸付金の減少5億2百万円などによるものであります。

この結果、総資産は前連結会計年度末比3億77百万円増加(同2.8%増)し、136億82百万円となりました。

(負債の部)

流動負債は、前連結会計年度末比3億83百万円増加(前連結会計年度末比7.1%増)し、57億61百万円となりました。これは、短期借入金の増加1億32百万円、1年内返済予定の長期借入金の増加1億56百万円、未払法人税等の増加50百万円などによるものであります。

固定負債は、前連結会計年度末比1億86百万円増加(同19.7%増)し、11億32百万円となりました。主な要因としては、長期借入金の増加1億84百万円などによるものであります。

この結果、負債合計は前連結会計年度末比5億69百万円増加(同9.0%増)し、68億93百万円となりました。

(純資産の部)

純資産は、前連結会計年度末比1億92百万円減少(前連結会計年度末比2.8%減)し、67億88百万円となりました。主な要因としては、親会社株主に帰属する四半期純利益による利益剰余金の増加2億42百万円、連結範囲の変更に伴う利益剰余金の減少2億33百万円、自己株式の増加に伴う減少2億円などによるものであります。

以上の結果、自己資本比率は49.6%(前連結会計年度末は52.5%)となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成30年3月期通期の連結業績予想につきましては、平成29年5月10日公表の業績予想から変更はありません。なお今後、業績予想について変更がある場合は速やかに公表いたします。

業績予想につきましては、当社が現時点で入手可能な情報に基づいて判断したものであり、実際の業績は業況の変化や予期せぬ事象の発生などによって、大きく異なる結果となる可能性があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成29年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,606,248	1,570,541
受取手形及び売掛金	1,251,798	1,420,962
商品及び製品	5,231,089	6,571,840
仕掛品	—	65,054
原材料及び貯蔵品	102,016	145,052
前払費用	137,001	149,177
繰延税金資産	90,616	21,389
その他	27,466	106,655
貸倒引当金	△132,433	△138,540
流動資産合計	9,313,804	9,912,132
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	754,361	947,300
機械及び装置(純額)	—	8,443
車両運搬具(純額)	84	329
工具、器具及び備品(純額)	837,284	888,908
有形固定資産合計	1,591,730	1,844,982
無形固定資産		
のれん	366,065	391,365
その他	16,594	33,249
無形固定資産合計	382,659	424,615
投資その他の資産		
投資有価証券	66,430	48,674
長期貸付金	3,000	3,000
関係会社長期貸付金	502,140	—
敷金及び保証金	1,039,691	1,107,422
繰延税金資産	7,715	7,655
その他	464,763	400,953
貸倒引当金	△66,985	△67,029
投資その他の資産合計	2,016,755	1,500,675
固定資産合計	3,991,145	3,770,273
資産合計	13,304,949	13,682,405

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成29年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	162,543	179,868
短期借入金	2,965,000	3,097,000
1年内返済予定の長期借入金	333,784	489,818
未払金及び未払費用	711,956	692,269
未払法人税等	192,844	243,659
前受金	961,647	901,962
その他	50,336	157,062
流動負債合計	5,378,112	5,761,640
固定負債		
長期借入金	750,346	934,719
退職給付に係る負債	194,062	196,655
その他	1,327	752
固定負債合計	945,735	1,132,127
負債合計	6,323,847	6,893,767
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,617,252	2,617,252
資本剰余金	2,376,152	2,376,153
利益剰余金	1,993,111	2,002,593
自己株式	△2,074	△202,079
株主資本合計	6,984,441	6,793,920
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	△3,339	△5,282
その他の包括利益累計額合計	△3,339	△5,282
純資産合計	6,981,101	6,788,638
負債純資産合計	13,304,949	13,682,405

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)
売上高	7,100,410	7,067,320
売上原価	3,113,219	2,804,491
売上総利益	3,987,190	4,262,828
販売費及び一般管理費	3,018,681	3,726,916
営業利益	968,509	535,912
営業外収益		
受取利息	3,080	272
為替差益	2,788	—
その他	680	1,050
営業外収益合計	6,550	1,322
営業外費用		
支払利息	12,151	18,456
為替差損	—	5,237
その他	171	2,042
営業外費用合計	12,323	25,736
経常利益	962,736	511,497
特別損失		
固定資産除却損	652	—
減損損失	9,685	—
特別損失合計	10,338	—
税金等調整前四半期純利益	952,398	511,497
法人税、住民税及び事業税	177,616	199,367
法人税等調整額	12,293	69,286
法人税等合計	189,910	268,653
四半期純利益	762,488	242,844
親会社株主に帰属する四半期純利益	762,488	242,844

(四半期連結包括利益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年9月30日)
四半期純利益	762,488	242,844
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	5,129	△1,943
その他の包括利益合計	5,129	△1,943
四半期包括利益	767,617	240,901
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	767,617	240,901

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	952,398	511,497
減価償却費	73,984	87,390
減損損失	9,685	—
のれん償却額	10,559	14,471
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	15,130	6,151
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	524	2,593
受取利息及び受取配当金	△3,080	△272
支払利息	12,151	18,456
為替差損益 (△は益)	10,403	△4,530
売上債権の増減額 (△は増加)	△268,151	△152,098
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△940,766	△1,295,277
仕入債務の増減額 (△は減少)	△19,657	7,040
未払金及び未払費用の増減額 (△は減少)	12,974	△91,313
前受金の増減額 (△は減少)	14,062	△65,382
未払又は未収消費税等の増減額	△116,146	△2,121
その他の流動資産の増減額 (△は増加)	△147,772	△7,156
その他の流動負債の増減額 (△は減少)	19,995	30,354
その他	△7,905	△1,700
小計	△371,608	△941,898
利息及び配当金の受取額	1,015	272
利息の支払額	△12,027	△17,229
法人税等の支払額	△325,603	△146,670
営業活動によるキャッシュ・フロー	△708,223	△1,105,526
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△110,773	△225,502
無形固定資産の取得による支出	△88	△18,710
敷金及び保証金の差入による支出	△40,261	△18,698
敷金及び保証金の回収による収入	30,585	3,718
短期貸付けによる支出	△102,620	—
短期貸付金の回収による収入	100	—
関係会社貸付けによる支出	△70,000	—
関係会社株式の取得による支出	△50,000	△48,674
その他	△4,439	△36,932
投資活動によるキャッシュ・フロー	△347,497	△344,799
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	755,000	785,000
短期借入金の返済による支出	△460,000	△653,000
長期借入れによる収入	—	500,000
長期借入金の返済による支出	△48,700	△159,593
自己株式の取得による支出	△14	△200,011
その他	—	8
財務活動によるキャッシュ・フロー	246,285	272,404
現金及び現金同等物に係る換算差額	△2,121	△1,303
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△811,556	△1,179,225
現金及び現金同等物の期首残高	2,535,917	2,606,248
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	—	143,517
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,724,360	1,570,541

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、平成29年5月26日及び平成29年6月23日開催の取締役会における自己株式の取得に関する決議に基づき、自己株式取得を行いました。これにより、当第2四半期連結累計期間において、自己株式が199,994千円増加しております。

また、第1四半期連結会計期間において株式会社ニューアート・クレイジー、株式会社ニューアート・ウェディング、HONG KONG NEW ART LIMITED、台湾新美股份有限公司を連結範囲に含めております。これにより、当第2四半期連結累計期間において連結範囲の変更に伴い、期首の利益剰余金が233,361千円減少しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自平成28年4月1日至平成28年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	ジュエリー 事業	エステ事業	アート事業	その他事業	合計		
売上高							
外部顧客への売上高	4,276,935	1,783,391	1,040,082	—	7,100,410	—	7,100,410
セグメント間の内部売上高又は振替高	237	31	—	—	269	△269	—
計	4,277,173	1,783,423	1,040,082	—	7,100,679	△269	7,100,410
セグメント利益	788,027	145,371	55,166	—	988,564	△20,055	968,509

(注) 1. セグメント利益の調整額20,055千円は、主に各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整しております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

該当事項はありません。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自平成29年4月1日 至 平成29年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	ジュエリー 事業	エステ事業	アート事業	その他事業	合計		
売上高							
外部顧客への売上高	4,663,719	1,562,738	619,568	221,294	7,067,320	—	7,067,320
セグメント間の内部売上高又は振替高	251	—	—	748	1,000	△1,000	—
計	4,663,971	1,562,738	619,568	222,043	7,068,320	△1,000	7,067,320
セグメント利益又は損失(△)	565,740	23,060	18,778	△32,674	574,905	△38,992	535,912

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額38,992千円は、主に各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整しております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

当社は、平成29年10月1日に持株会社制へ移行しており、第1四半期連結会計期間より、グループ会社の管理体制を見直し、経営管理方針を変更しました。これに伴い、従来の「ジュエリー・アート事業」において美術品等の販売業務を分離し、「ジュエリー事業」および「アート事業」に表記を変更しています。

また、第1四半期連結会計期間より、「ジュエリー事業」において台湾新美股份有限公司、「エステ事業」においてHONG KONG NEW ART LIMITED、そして新たに追加した「その他事業」において株式会社ニューアート・クレイジーおよび株式会社ニューアート・ウェディングを重要性が増したため連結の範囲に含めております。

なお、前第2四半期連結累計期間のセグメント情報は、変更後の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

第1四半期連結会計期間より、「その他事業」において、株式会社ニューアート・クレイジーを重要性が増したため連結の範囲に含めております。なお、当該事象によるのれんの増加額は39,771千円であります。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。